

「課題解決型高度医療人材養成プログラム」における工程表

申請担当大学名	名古屋大学
連携大学名	無し
事業名	明日の医療の質向上をリードする医師養成

① 本事業終了後の達成目標

本事業終了後の達成目標	
達成目標	<p>本補助事業の全体の目的は、医療現場における感染制御を含めた患者安全と医療の質向上を推進し、日本の医療機関における病院基盤部門整備に資するため、課題解決能力を有する管理者医師を養成し、継続的支援も含めそのネットワークを強化・推進することである。</p> <p>1. 地域社会における患者安全・医療の質向上のニーズに基づき、トヨタ自動車等我が国の産業界が世界に先行して取り組んできた品質管理手法を教育として導入することにより、医療界における品質管理、改善手法の強化を図ることに注力し、どのようなカリキュラムが適当であるか、異業種、また院内多部門間での議論を重ね、カリキュラムを試行しつつ検討し、確立を進めていく。</p> <p>2. 各医療機関から本事業の養成プログラムに受講者として参画してもらうことにより、各々の施設の患者安全や質向上の取組の充実・発展を図ることが可能となるため、受講者の増加が必須要件であり、そのための広報や周知活動を積極的に実施する。</p> <p>3. 感染制御については、既に多くのICD有資格者がいるが、多くの施設では感染制御・感染症診療が専門ではない他診療科の医師が兼任しており、一方で専門医の育成にはまだ時間がかかる状況である。そこで、兼任医師がより有効に病院感染制御活動のマネージメントを行えるようになるため、医療安全や質改善の視点を取り入れ、感染制御・感染症診療のエッセンスを学び、ステップアップが可能なカリキュラムを検討する。</p> <p>4. 人財ハブセンター化を推進することにより、地域・日本全体の継続的な質向上への標準化が進むことが可能となるため、そのためのインフラ整備に始まり受講者のキャリアパス支援を含めた、ソフト面・ハード面の充実を図る。</p>

② 年度別のインプット・プロセス、アウトプット、アウトカム

		H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
インプット・プロセス (投入、入力、活動、行動)	定量的なもの	<ul style="list-style-type: none"> ・プログラムニーズ調査1回 ・事前評価委員会の開催1回 	<ul style="list-style-type: none"> ・明日の医療の質・向上をリードする医師養成プログラム新規受入れ: 医師3名 ・明日の感染制御を担う人財ステップアッププログラム(インテンシブ)新規受入れ: 医師1名 ・評価委員会の開催1回 ・人財ハブセンター主催セミナー1回 	<ul style="list-style-type: none"> ・明日の医療の質・向上をリードする医師養成プログラム新規受入れ: 医師5名 ・明日の安全管理を担う医師養成プログラム(インテンシブ)新規受入れ: 医師2名 ・明日の感染制御を担う人財ステップアッププログラム(インテンシブ)新規受入れ: 医師1名 ・評価委員会の開催2回 ・人財ハブセンター主催セミナー1回 ・修了者アンケート実施1回 	<ul style="list-style-type: none"> ・明日の医療の質・向上をリードする医師養成プログラム新規受入れ: 医師6名 ・明日の安全管理を担う医師養成プログラム(インテンシブ)新規受入れ: 3名(うち医師2名、大学院生1名) ・明日の感染制御を担う人財ステップアッププログラム(インテンシブ)新規受入れ: 3名(うち医師2名、大学院生1名) ・評価委員会の開催2回 ・人財ハブセンター主催セミナー1回 ・修了者アンケート実施1回 	<ul style="list-style-type: none"> ・明日の医療の質・向上をリードする医師養成プログラム新規受入れ: 医師6名 ・明日の安全管理を担う医師養成プログラム(インテンシブ)新規受入れ: 3名(うち医師2名、大学院生1名) ・明日の感染制御を担う人財ステップアッププログラム(インテンシブ)新規受入れ: 3名(うち医師2名、大学院生1名) ・評価委員会の開催2回 ・人財ハブセンター主催セミナー1回 ・修了者アンケート実施1回
	定性的なもの	<ul style="list-style-type: none"> ・事業専任教員等の雇用による体制整備 ・カリキュラムの作成のための研修会等参加 ・カリキュラム作成開始 ・人財ハブセンターのインフラ整備 ・HP・パンフレットの整備 	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラム検討のための研修会等参加 ・人財ハブセンターの設置 ・カリキュラム変更検討 ・セミナー企画 	<ul style="list-style-type: none"> ・人財ハブセンターの運営 ・カリキュラム変更検討 ・セミナー企画 ・修了者の課題発表支援 ・人財ハブセンターデータ分析テーマ設定 	<ul style="list-style-type: none"> ・人財ハブセンターの運営 ・カリキュラム変更検討 ・セミナー企画 ・修了者の課題発表支援 ・人財ハブセンターデータ分析テーマ設定 	<ul style="list-style-type: none"> ・人財ハブセンターの運営、新体制確立 ・セミナー企画 ・修了者の課題発表支援 ・人財ハブセンターデータ分析テーマ設定

アウトプット (結果、出力)	定量的なもの	<ul style="list-style-type: none"> ニーズ調査対象医療機関1,000以上 	<ul style="list-style-type: none"> 修了者は次年度以降を予定 人財ハブセンター主催セミナーへの参加者10名/回以上目標 	<ul style="list-style-type: none"> 明日の医療の質・向上をリードする医師養成プログラム修了者: 医師8名 明日の安全管理を担う医師養成プログラム(インテンシブ)修了者: 医師2名 明日の感染制御を担う人財ステップアッププログラム(インテンシブ)修了者: 医師2名 人財ハブセンター主催セミナーへの参加者10名/回以上目標 当事業の成果報告1件以上 	<ul style="list-style-type: none"> 明日の医療の質・向上をリードする医師養成プログラム修了者: 医師6名 明日の安全管理を担う医師養成プログラム(インテンシブ)修了者: 3名(うち医師2名、大学院生1名) 明日の感染制御を担う人財ステップアッププログラム(インテンシブ)修了者: 3名(うち医師2名、大学院生1名) 人財ハブセンター主催セミナーへの参加者10名/回以上目標 当事業の成果報告2件以上 	<ul style="list-style-type: none"> 明日の医療の質・向上をリードする医師養成プログラム修了者: 医師6名 明日の安全管理を担う医師養成プログラム(インテンシブ)修了者: 3名(うち医師2名、大学院生1名) 明日の感染制御を担う人財ステップアッププログラム(インテンシブ)修了者: 3名(うち医師2名、大学院生1名) 人財ハブセンター主催セミナーへの参加者10名/回以上目標 当事業の成果報告2件以上
	定性的なもの	<ul style="list-style-type: none"> プログラムへのニーズ調査結果分析 評価委員によるプログラムに対する事前の評価を受ける e-learningコンテンツを含むカリキュラムの作成開始 カリキュラム、人財ハブセンター設置に必要な機材整備 HP・パンフレット作成 	<ul style="list-style-type: none"> カリキュラム完成 履修者の所属機関とのネットワーク構築 人財ハブセンター主催セミナーへの参加者のアンケート調査結果分析 研修会、学会等参加 評価委員によるプログラムに対する評価を受ける 	<ul style="list-style-type: none"> 修正カリキュラム完成 履修者の所属機関とのネットワーク構築 人財ハブセンター主催セミナーへの参加者のアンケート調査結果分析 人財ハブセンターデータ分析結果 評価委員によるプログラムに対する評価を受ける 	<ul style="list-style-type: none"> 修正カリキュラム完成 履修者の所属機関とのネットワーク構築 人財ハブセンター主催セミナーへの参加者のアンケート調査結果分析 人財ハブセンターデータ分析結果 評価委員によるプログラムに対する評価を受ける 	<ul style="list-style-type: none"> 履修者の所属機関とのネットワーク構築 人財ハブセンター主催セミナーへの参加者のアンケート調査結果分析 人財ハブセンターデータ分析結果 評価委員によるプログラムに対する評価を受ける
アウトカム (成果、効果)	定量的なもの	<ul style="list-style-type: none"> ニーズ調査における「検討したい」割合50%以上 	<ul style="list-style-type: none"> 受講問合せ数20件以上 人財ハブセンター主催検討会試行1回 	<ul style="list-style-type: none"> 受講問合せ数20件以上 修了者の相談3件以上 人財ハブセンター主催検討会開催1回 	<ul style="list-style-type: none"> 受講問合せ数20件以上 修了者の相談5件以上 人財ハブセンター主催検討会開催1回 人財ハブセンターデータ発表1回 	<ul style="list-style-type: none"> 受講問合せ数10件以上 修了者の相談5件以上 人財ハブセンター主催検討会開催1回 人財ハブセンターデータ発表1回
	定性的なもの	<ul style="list-style-type: none"> プログラムへのニーズを取り入れた、より有用なカリキュラムの作成 患者安全・質管理を網羅したカリキュラムの作成 平成27年度の設置に向けた人財ハブセンター設置準備 HP・パンフレットによる周知 	<ul style="list-style-type: none"> 履修者の所属機関と安全管理・感染制御部門をつなぎ、ネットワークを構築する。 人財ハブセンターの存在・活動内容を周知し、病院基盤部門の重要性・専門性の認識を高める 評価委員会の意見を取り入れた、より有用なカリキュラムの作成 	<ul style="list-style-type: none"> 履修者の所属機関と安全管理・感染制御部門をつなぎ、ネットワークを構築する。 人財ハブセンターの存在・活動内容を周知し、病院基盤部門の重要性・専門性の認識を高める 評価委員会の意見を取り入れた、より有用なカリキュラムの作成 	<ul style="list-style-type: none"> 人財ハブセンターの認知が高まる ネットワークを利用したプロジェクト 修了者の医療機関における安全文化醸成 評価委員会の意見を取り入れた、より有用なカリキュラムの作成 	<ul style="list-style-type: none"> 人財ハブセンターの認知が高まり、継続的なカリキュラム提供が可能となる。 ネットワークを利用したプロジェクト 修了者の医療機関における安全文化醸成

③ 推進委員会所見に対する対応方針

要望事項	内容	対応方針
①	事業期間中は、PDCAサイクルによる工程管理を行った上で、全国の模範となるよう体系的な教育プログラムを展開すること。その際、履修する学生や医療従事者等のキャリアパス形成につながる取組や体制を構築すること。	我々のプログラムはPDCAサイクルを理解し、様々な改善をできる医師を養成する教育プログラムであり、その構築に関しても、異業種の専門家(トヨタグループ、中部品質管理協会)とも議論し、工程管理し取り組む予定である。安全管理、感染管理、質管理を専門とする医師のキャリアパス構築には、専門性、継続的に取り組む動機、そして社会的な認識が必要と思われる。専門性、動機に関してはプログラム履修によりある程度達成が見込めるが、社会的認識に関しては、プログラムの存在やその成果を社会に持続的に提示することによって達成されうると考えている。今後社会への啓発活動も予定している。
②	事業の実施に当たっては、学長・学部長等のリーダーシップのもと、責任体制を明確にした上で、全学的な実施体制で行うこと。また、地域医療の充実やチーム医療の推進の観点からも、学外の有識者にも積極的に参画いただき、事業の構想を実現できる体制を構築すること。	①の対応方針にも記載したように、養成プログラムの社会的認識を広めるためにも、関連団体等の代表者、地域の有識者を外部委員として招へいし、軌道修正を図りながら、当初の目的が達成できるよう、全学的に取り組む予定である。また、大学院医学系研究科長を委員長とした部門横断的なメンバーで構成される運営委員会を設置し、プログラムの方針の決定、進捗状況の確認・助言を行う体制を構築する。
③	事業期間終了後も各大学において事業を継続することを念頭に、具体的な事業継続の方針・考え方について検討すること。また、多くの大学に自らの教育改革を進める議論に活用してもらうため、選定大学が開発・実践する教育プログラムから得られる成果等を、可能な限り可視化した上で、地域や社会に対して分かりやすく情報発信すること。	人材ハブセンターは病院組織として継続を図る方針である。開発した教育プログラムも改善を加え、地域の医師が参加しやすいカリキュラムとして提供し続ける予定である。成果に関しては、今後開設するHPでの広報等に加え、医療の質・安全学会を初め国際学会等にも報告し、論文化して広く情報発信する予定である。

④ 推進委員会からの主なコメントに対する対応方針

推進委員会からの主なコメント(改善を要する点、留意事項)	対応方針
「明日の医療の質・向上をリードする医師養成プログラム」では履修科目が多いため、履修者の本務との両立を図るための配慮が必要である。	<ul style="list-style-type: none"> ・在籍病院での職務に支障を来さないよう、個人の知識習得を目的とするカリキュラムは可能な限りe-learningシステムを活用する。 ・e-learningでの知識習得は、確認テストなどで担保する。 ・グループワークの際には、確認テストにおける回答なども参考にして参加者の積極的な学習参加を促す。
産業界の先進的な品質管理手法を導入した新しい試みであるが、過度に医療を工業と同列の単純・線形化したモデル教育は限界とリスクを包含することも想定されることから、事業参画者の中で十分な協議・検討を行った上で、人材養成に取り組んでいただきたい。	御指摘の点を解消するために、きめ細やかな打合せ、及び相互学習(お互いの研修プログラム、所属の学会・団体主催の会等への相互参加)を進め、協議・検討を重ねた上でカリキュラム化する予定である。
感染制御コースは既にICDの資格を有する者が対象であり、新たなICD養成のための教育プログラムが構築できないか検討いただきたい。	インфекション・コントロール・ドクター(ICD)制度はICD制度協議会に加盟する23学会が共同で運営しており、事務局に問い合わせたところ、新たにICDを認定・申請する場合には、「本協議会主催の講習会又は厚生労働省の委託による院内感染対策講習会への参加実績が3回以上あること」と規定されており、本プログラムの受講をもってその条件に充てることはできない、との回答であった。ICDの取得要件は講習会参加に加え、(1)制度協議会加盟学会への所属、(2)在籍病院での感染対策活動への従事、(3)在籍病院長からの推薦、と比較的容易であり、ICDは現在延べ約8,000名が取得している。この数字は日本感染症学会の提唱する必要な感染症専門医数の3,000-4,000名と比較しても十分な数に達していると考えられる。ただ、ICD取得要件が容易である反面、実診療の場面で求められる専門的知識が十分でないことも多く、今回のプログラムでは実際の場で感染対策を実施しているICDのレベルアップを図ることを目的としたが、基本的知識のブラッシュアップも充実させて対応する。